

あそびから未来をかえる

PLAYSCAPE

— 「世界のあそび環境」の本 —

ボーネルンドは、デンマーク語の「børne＝生まれた、小さな」と「lund＝森」を意味する2つの言葉から名づけました。私たちは自然があふれ、子どもも大人もくつろぎ、さまざまな出会いの場である森こそが、子どもにとって理想的なあそび場であると考え、そのような豊かなあそび環境を増やしたいという願いを込めています。グループ創業以来40年あまり、世界中の優れた「あそび道具」を提供し、さらに公園、幼稚園・保育園、公共施設や医療、商業施設などに、安全・安心な「あそび環境」を実現し、その領域はますます広がっています。

日本は高度成長期を経て奇跡的な経済発展を遂げてきましたが、今、大きな変革期を迎えています。「子ども」「子育て」「あそび」「教育」は、未来を生きる自立した子どもたちを社会全体で育てていくために、まさに日本が直面する最重要課題であり、社会、行政、企業、そして私たち一人ひとりの行動が求められています。

『プレイスケープ』は、私たちが考える「理想のあそびの森」を実現するための哲学、オピニオンリーダーの意見、国内外の先進事例、あそび環境をつくるために必要な遊具を一冊にまとめました。豊かなあそび環境を考えるツールとして役立てていただければ幸いです。



Playground as Third Place

子どもが遊び、学び、育つ場所
あそびを中心にあらゆる人々が集う場
私たちは、そんなPlayscape(あそびの景)
を創造していきます。



CONCEPT

社会基盤としてのあそび環境

人口減少社会を迎えた日本では、今、社会がひとつになって、子育てが楽しく、子どもとともにいきいき暮らせる社会システムを構築することが急務です。その第一歩として子どもを中心に誰もが楽しく過ごせるあそび環境の整備が求められます。豊かなあそび環境は、学校や病院と同じように欠かすことのできない社会基盤であり、誰もが集えるサード・プレイスなのです。ここでは、現代の子どもとあそびの状況、あそび環境の課題、世界の事例を紹介します。

あかかねキッズパーク(愛媛県)

子どもと社会

「少子化社会対策白書」(内閣府 平成29年版)によると、2015年度の合計特殊出生率は1.45、最低を記録した2005年の1.26よりも底上げされてはいるものの、日本は明らかに人口減少社会に突入しました。そこで語られるのは、経済の衰退、年金などの世代間格差、移民増加など、大人の側の問題ばかりです。少子化によって、日本の子どもの

育つ環境の質がどのように変化するのか、子どもの側からの議論はほとんどありません。

今、私たち大人が努力すべきは、未来を担う子ども一人ひとりに目を向けること。その人格を尊重しつつ育み、ともにいきいきと暮らせる社会システムを、社会がひとつになって意思をもって構築していくことです。

すでに、安定した民主社会を実現している北欧、ドイツ、オランダなどは、30年以上前から「人」こそが、国の財産であると自覚し、

子どもたちを健やかに、自立した大人に育てることが国家の責任であるという共通認識のもと、さまざまな施策が実践されています。なかでも、子どもの人格形成に欠かせない幼児期のあそびの重要性が認められ、ソフト・ハード両面から環境整備がなされ、時代状況に合わせて進化を遂げているのです。子どもの目線に立った環境をつくりあげることが、子育てや子どもにやさしい社会実現への第一歩なのではないでしょうか。

子どもとあそび、変わること、変わらないこと

「あそぶことは生きること」。

子どもにとってあそびは生活のすべて。子どもはあそびを通して自分を発見し、挑戦して達成感や満足感を得たり、対話力や社会性を身につけながら、「生きる力」を育てていきます。

オランダの歴史家、ヨハン・ホイジンガは、人類の名称「ホモ・サピエンス」に倣って、「ホモ・ルーデンス＝(遊ぶ人)」という概念を示し、著書のなかで「人間文化は遊びのな

かにおいて、遊びとして発生し、展開してきたのだ」「遊びは文化より古い」(『ホモ・ルーデンス』中公文庫)と述べています。このように人とあそびの関係は太古の昔から変わらず現在へと続いています。子どもの成長とあそびの本質も大きく変わるものではありません。

一方で、子どもを取り巻く社会は時代とともに変わります。都市化、核家族化は現在も続いており、近年はさらに共働き・母子家庭の増加や子どもの貧困なども大きな社会問題となっています。とくに日本の子どもの貧

困率は先進国のなかでも深刻な状況にあり、一刻も早い対策が求められています。

ここ10年あまりでは、世界的にはインターネット社会の到来やグローバル化が進行し、日本では成長社会から定常型社会への移行期にあって、持続可能性や既存の資源をいかに活用していくか、所有から共有(シェア)へとといった発想の転換が求められています。21世紀型の社会や発想がすでに生まれている現在、未来に即した人材育成は急務です。その基礎となる子どものあそび場の充実と次世代への対応は大きな課題です。

あそびと娯楽の違い

あそび

プレイ

日常的

能動的

蓄積

継続

全生活

娯楽

エンターテインメント

非日常的

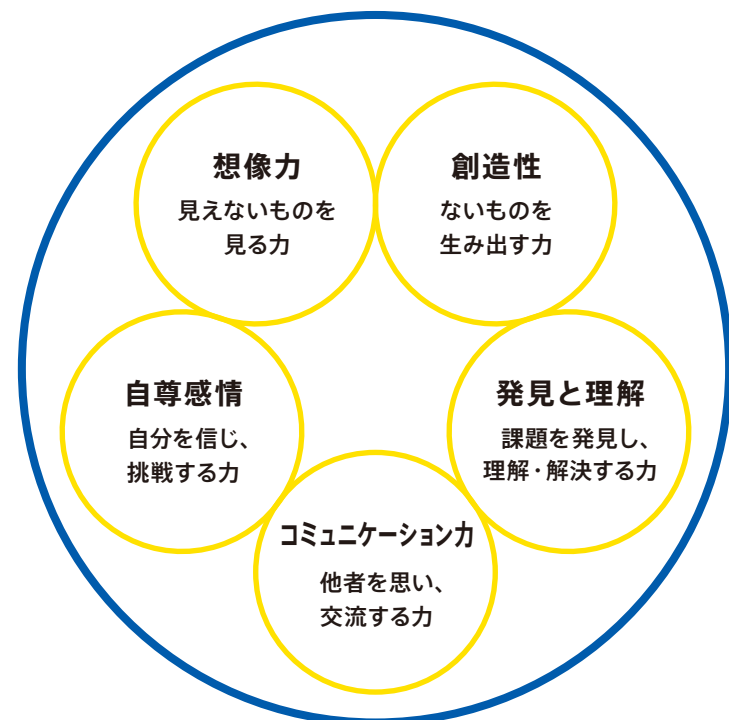
受動的

消費・消耗

一過性

余暇・暇つぶし

あそびが育む生きる力



ボーネルンドは、「あそび」と「娯楽」を区別して考えています。子どもには主体的、能動的に関わる「あそび」が重要です。

子どもは生きていくために必要な力を、あそびを通して自然なかたちで身につけていきます。

あそびから 未来をかえる

「あそびから未来をかえる」。

ボーネルンドは、あそびを取り巻く環境づくりが子育てにやさしい社会を実現し、さらに未来をつくる原動力になると信じています。ここからは、私たちが考えるあそび環境、理想とするあそびの景＝PLAYSCAPEについて、5つのテーマに沿って解説していきます。

1. これからの教育とあそび

2020年、日本の教育は大きく舵を切ります。文部科学省による新学習指導要領によると、小中高校の授業内容が改革され、なかでも注目されているのが「アクティブ・ラーニング（以下AL）」、すなわち能動的学習の導入です。これは、従来の教師から学生への一方的な知識の伝達だけでなく、課題研究、ディスカッションやプレゼンテーションといった生徒による主体的、能動的な学習を取り入れるというものです。

北欧やオランダなどではすでにこうした発想による教育が実践されており **CASE 1**、アメリカではALを先取りしたような個性的なスクール **CASE 2** も存在しています。ま

た欧米には、自主的な学びの要素を多く含む、特徴のあるチルドレンズ・ミュージアム **CASE 3** も多く存在し、学校では得ることのできない体験や知識を体得できる機会を提供しています。

ALの成功の鍵は子ども時代のあそびにあると私たちは考えています。あそび体験の積み重ねから、自ら目標（興味）を発見し、探求し、達成する、そして新たな目標に挑戦するという好循環が生まれるからです。これが学習の意欲や努力につながるのです。これからのあそび環境では、あそび＝学習の楽しさや充実感を知る手がかりとなるあそび道具や空間づくり、あそびの知識が豊富な専門家やあそびのリーダーの育成が大きな課題となっています。

CASE 1

オランダの新しい学校 「Brede School」

オランダでは従来、4～12才までの子どもが通う「Basis School」が義務教育の思想を反映する教育機関として機能していた。幼稚園から小学校への環境変化の負担を感じさせることなく、長い視野に立った一貫した教育が実践され、グループ学習などを通して、子どもの自主性が尊重されている。

近年では、「Brede School (Broad School)」という、保育施設、幼稚園、小学校、学童保育、職業訓練校、スポーツクラブや文化施設などが同じ敷地内に集合し、互いに連携する統合型教育施設が増えている。日本の概念でいえば「コミュニティ・スクール」に近く、各施設は独立を保ちつつ緩やかにつながって補完し合っている。ここでは子どもは多様な人々と関わりながら、幅広い知識や経験を得、自立性や社会性を身につける。地域に密着したBrede School内の保育園は、家庭とも緊密な関係を保ちながら運営されている。



アムステルダム市内にあるBrede School。木を基調とした家庭のリビングルームのような設え。少人数で、教育玩具、コンピュータなど自由に選んで、一人でもグループでも、自由に遊びながら学ぶ教育を実践。



子どもにとって、夢中に遊ぶことが大きな学びにつながる。

認定こども園OURS（千葉県）

CASE 2

ニューヨーク市マンハッタン私立学校 「Blue School」

パフォーミングアートで知られる「ブルーマン・グループ」のメンバーによって設立されたBlue School。2才から中学校まで、独自の革新的な教育法を実践する男女共学の私立学校。その目的は「変化し続ける世界のための教育を新たに創造すること」。探究心、あそび、アートと創造的思考能力を核とし、生徒主導のプロジェクトベースのカリキュラムが組まれている。

朝はその日のプランについて話し合うモーニング・ミーティングから始まり、カリキュラムは固定されず、教師が生徒たちとの共同作業に基づいて決定する。教師は生徒の成長のサポート役を務め、生徒自身に教室内で行う課題に対する強い自意識をもたせることで、他者との協力やリスペクトの感情が生まれ、異なる意見を受け入れられるようになる。Critical Thinking（批判的思考力）を養うことで、将来世の中に出たときに自分がコミュニティの一員であることを認識できるようになると考えている。



Blue Schoolの幼稚園児のクラスルームは子どもの自主性を尊重した部屋づくり。学校の玄関先に置かれた筒状の下駄箱も創造的。

CASE 3

カリフォルニア州サンホセのチルドレンズ・ミュージアム 「Children's Discovery Museum of San Jose」

世界的なIT企業が集まるシリコンバレーの中心都市にあるChildren's Discovery Museum of San Joseは「芸術と科学の交差点」。「シリコンバレーを代表し、家族で来館できる、地域に根づいたミュージアムでありたい」という思いのもとつくられた。移民、特にメキシコ人とベトナム人が数多く暮らす地域なため訪問者も実に多様であり、館内の標語はすべて英語、スペイン語、ベトナム語で表記されている。

また「子どもたちの好奇心をサポートする」という信念のもと、科学からアートまで展示はすべて、実際に手で触れ、音を聞き、全身で振動を感じ、遊びながら学ぶことができる体験型のもの。館内には、2005年に近くで発見された14,000年前のマンモスの骨が展示され、子どもたちは窓の外に実物大のマンモスの姿を臨みながら、ゴーグルをつけ、レプリカの骨を発掘できる仕掛けがある。各エリアで地域独特の文化を反映し、より親しみやすさを感じさせるインテリアになっている。



館内はユニークな体験型展示が、実物大のマンモスを臨む環境で古代生物について学んだり、サンホセの企業や個人からの支援でつくられた水遊びエリアには子どもたちが驚く仕掛けが。





キューバの農村の子どもたち。子どもは何でもあそびの種子にしてしまう。

2. 自然と人工の調和

天真爛漫な子どもの存在は、まさに「自然」そのもの。そんな子どもたちは、原っぱや森、昆虫や植物、水や土を通して、かけがえのないあそびの体験をしてきました。しかし都市化が進む現在、子どもたちが自然に触れる機会はめっきり減少しました。そのため、あそび環境をつくるうえで、「自然」をどのように導入していくかはますます重要な課題です。

ポーネルンドでは戸外の公園や園庭のデザインにおいていかに自然を取り込むか、さまざまな工夫を施しています。たとえば、ありのままの地形の起伏を利用する、多様な植栽を行う、水場や砂場をつくる、日向と日陰のバランスを考えるなど、敷地の条件を最大限に活かして、子どもたちがその地域の自然を体感しながら遊べる仕掛けづくりです。また、子ども本来の自然で自由な振る舞いを引き出すよう、あそびの機能や素材、空間構成について研究開発に努めています。

一方、自然に代わって子どもから多様な発見と動作を引き出し、あそび場に欠かせない大型多機能遊具も日々進化を遂げています。ポーネルンドにおいても最近では金属やプラスチック製品に加えて木製品も増やしており、木の感触や匂いを感じながら遊べるようにしています。グリム童話を生んだドイツには森をモチーフとした公園や遊具が多く存在し **CASE 4**、豊かなあそびの景が守られています。私たちは、世界各地の優れた事例を参考に、自然と人工が調和した日本独自のあそび環境を提案したいと考えています。

CASE 4

ベルリン郊外の住宅地に出現 「Jungle playground」

ドイツの首都ベルリンにある「Jungle playground (ジャングル公園)」は、3,400㎡もの広い敷地を誇り、赤ちゃん連れの家族や小学生など多様な地域住民が訪れ、思い思いの時間を過ごす憩いの場となっている。

広大な園内には、曲がりくねった天然木の形を活かしてつくられた遊具や小屋、ゴリラやキリン、サルなどの動物彫刻が設置されている。それらは経年変化ですっかり周りの木々に溶け込み、まさにその名の通り「ジャングル」のよう。職人が一つひとつ手づくりした遊具はアートのような多様性と完成度を誇っており、子どもだけでなく、大人も思わず触ったり目をとめてしまう魅力にあふれている。ここではまるで本当のジャングルに迷い込んだかのように、野性味あふれる遊具やアスレチックで遊んだり、周囲と馴染んで佇んでいる木製動物たちをワクワクしながら発見できる場所である。



園内にはプラスチックや鉄素材の遊具や屋外家具はなく、まさにジャングルに迷い込んだような野性的な雰囲気。自然と調和している遊具に足をとめ、休憩する大人も多い。



チェコ共和国、行政と企業が支援し、母親が自主運営する「クラブ」。母子の社交場。

3. 既存施設×子育て支援＝あそび場

近年、待機児童の問題と同様に、子育て中の母親の育児疲れや孤立、子どもの居場所の減少がクローズアップされ、多くの行政や企業が子育て支援に取り組むようになっています。

そのひとつが子どものあそび場、とくに乳幼児と母親のためのあそび場づくりであり、孤立しがちな母子が安心して他の母子と時間と場所を共有できる「居場所」でもあります。それらは授乳室や休憩所も完備され、親子で日常的に通える場所として多くの母親の

共感を得るものでなければなりません。そのためには、一歩踏み込んで、子育てアドバイザーの常駐やワークショップの開催など、より積極的な支援を打ち出す必要があるかもしれません。少子化の今、子育て支援は何よりも優先されるべき行政サービス、企業のCSR（企業の社会的責任）として、ようやく認識されてきました。

海外では、少子化をくいとめたフランスの「ミクロ保育園 **CASE 5**」という新たな施設が注目されています。ここには日本の待機児童や母子孤立という問題にとどまらず、各家庭や地域社会に根づいた子育てやあそび環境を考えるうえで大きなヒントがあります。

もうひとつ、あそび場づくりには、日本が直面する大きな課題を解決する可能性があります。それは、全国に存在する使われなくなった建物や施設、活力をなくした地域社会の再生です。いわゆる「ハコモノ」と呼ばれる公共施設や娯楽施設、商業施設、廃校の校舎や体育館などは年々増加していて、大きな社会問題となっています。ところが、これらの物件は面積や設備、立地条件も恵まれたものが多く、子どものあそび場としてのポテンシャルを十分に備えているのです。こうした空間をあそび場として再活用し、さらに地域の活性化につなげることができた成功例も数多くあります。

CASE 5

フランスの小規模保育 「micro-crèche」

フランスの郊外や周辺の小さな村では、保育園や幼稚園のニーズはあるものの、子どもの数が少なく、通常の園の形式での開設・運営が困難であった。そこでフランス政府が助成金を用意して、小規模保育を推進する動きが生まれた。このコンセプトは、「子どもの数が多くても、新しい施設を建設する場所がない」都市部においても採用され、現在は地方だけでなく、都市の中心部に既存の建物を活用した小規模保育の場「micro-crèche(ミクロ保育園)」が誕生している。ここでは、3ヶ月から6才までの最大10人ほどの子どもたちが、異年齢の子ども同士で密接に触れ合いながら育つ。保護者も家や職場に近く、保育士と密にコミュニケーションを取れるメリットがある。さらに大規模保育園では管理上難しい一時預かりなど、きめ細かなニーズに柔軟に対応可能。このように「ミクロ保育園」は、新しい子育て支援の場としてフランス国内で親子をサポートしている。





デンマークでは体を動かすことに関心が高く、デンマーク体操は日本のラジオ体操の基盤といわれる。

4. 体遊びとスポーツ

体遊びとスポーツは同じようであって、まったく異なります。あそびは失敗や成功、勝ち負けがなく、自分から楽しく体を動かすことが第一。その結果として速く走る、遠くまでボールを投げるといった成果がついてきます。一方、スポーツは最初からゴールがあるので、達成できない子どもは苦手意識をもってしまいます。子どもの体力や身体機能、免疫力の低下などがいわれていますが、遊びながら体を動かし、その楽しさや充実感を子

ども時代に体験していると、生涯を通じて運動に親しめます。

ポーネルンドは創業時から体遊びに注目し、独自の大型運動遊具を取り入れたあそび環境を開発してきました。近年では小学校やスポーツジム、シニア向け施設でも体遊びの要素を取り込んだ新しいプログラムを導入し、遊具やノウハウを提供する機会が増えています。小学校からは、生徒が休み時間に思いきり遊んで発散するとその後の授業に集中して取り組めるという二次的効果についての意見もいただきました。

この分野でも北欧やオランダでは先進的な取り組み **CASE 6** があります。それらの多くは地域社会に根ざした室内運動施設として、長い冬季のあそび場であり、他民族の子どもたちが言葉の壁を越えて交流し、誰もが利用できるコミュニティスペースとして機能しています。

日本においても2020年の東京オリンピック開催を機に、今まさにスポーツや運動への関心が集まっています。子どもからシニアまでが運動やスポーツの楽しさを満喫できる、そんな新しいあそび場の登場が期待されます。

5. これからのあそび環境

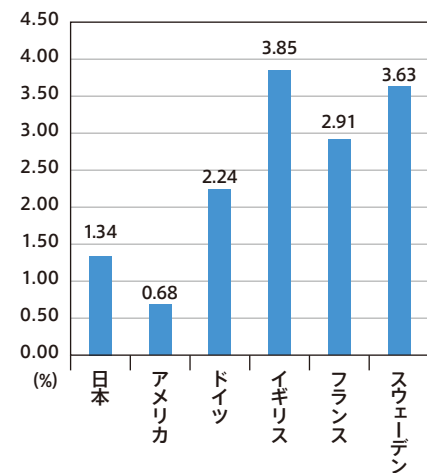
ポーネルンドは、暮らし、教育、公共といったあらゆる場に「あそび」を展開していきたいと考えています。なぜなら、あそびが内包する豊かさが未来を切り開く原動力になると信じているからです。

あそびの豊かさとは、年齢や性別、言語や文化、障がいのあるなしにかかわらず、その人なりに楽しんだり遊んだりできる許容の大きさであり、多様な人々を緩やかにつなぐ力です。そして何より、あそびのまわりには笑顔があります。

20世紀が追求してきた合理性や効率性は人々のつながりを切断し、孤立させてきました。その影響をもっとも受けているのが子どもたちです。また、日本は先進国のなかでもGDPに比較して、家族関係社会支出の財政規模が小さいことも知られており、国全体での議論が求められています。

私たちは、あそび道具から環境整備、メンテナンスまで、総合的に取り組んでいる世界唯一の企業として、子どもたちの未来を考える行政や企業、多くの人々と連携を深めながら、社会基盤としてのあそび環境の創造と普及を目指します。

各国対GDP比、家族関係社会支出
(内閣府少子化対策Webより)



注：●家族関係社会支出とは家族支援のために支出される現金、現物給付。児童手当、就学援助、出産育児諸費、児童扶養手当などが含まれる。●日本は2014年度、他は2013年度
(国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」、2014年度より)



あかしこども広場(明石市)

CASE 6

オランダのスポーツ施設 「010 trickz」

「010 trickz」は、オランダの港湾都市ロッテルダムの郊外に小学校の廃校跡を活用してオープンしたスポーツ施設。一般的なスポーツジムとは一線を画したプログラム(武道や格闘技などの要素を盛り込んだアクロバティックな動きから、筋力やバランス力、柔軟性や瞬発力を鍛える最新のエクササイズ)を導入。若者を中心に、ダンスなどのパフォーマンスアートにも通ずるエクササイズとして注目されている。

ここでは、有志による自主運営のため経費節減が徹底されており、スペースは廃校を活用、室内の器具の多くは仲間と一緒に制作、壁面の印象的なグラフィックも地域のアーティストたちがペイントしたもの。8才以上なら、1レッスン料€5、ジム施設の利用€50で誰でも利用でき、恒常的な資金不足はアイデアとボランティア精神でクリアしている。

日本でも、こういった「クールで、緩やかな地域のつながりがある、インストラクターではない『お兄さん』のような存在の人がいる」施設があってもよいのでは? (€=131円 ※2018年2月現在)



廃校を利用したユニークなスペースには、手づくり感満載の設備や機材が配されている。室内はパンクなグラフィックを背景に、トレーニングマシン、広々とした床など、最新のエクササイズを満喫できるづくり。

ボーネルンドがつくる あそび環境とは？

豊かなあそび環境とは、どのようなものか？

ボーネルンドは、創業以来約40年にわたって、優れたあそび道具やあそび環境を探求し続けています。世界中のあそび環境を研究する一方、あそび場の運営を行い、子どもたちの遊ぶ姿からも常に学んでいます。そんな“あそびのプロフェッショナル”だからこそ、できる提案があります。あそび環境のデザインからメンテナンスまで総合的に、それぞれのニーズに最適なあそび環境づくりを行います。そこは、子どもがいきいきと遊び育つ環境、親子に愛される場となります。

私たちが大切にしているあそび環境における5つのこと

1 「こころ・頭・からだ」の 発達を促すあそび環境

子どもは遊びながら、「こころ・頭・からだ」のバランスをとり、発達させていきます。全身を使ってダイナミックに遊ぶ空間や、自分と向き合ってじっくり手先を使って遊ぶ空間など、発達段階に沿った多様なあそびを体験できる環境づくりを目指しています。

2 施設の目的に合った、 あそびの機能を提案

近年、あそび環境は多様な場所に広がっています。その場所や施設の目的に合わせた配慮や工夫が欠かせません。赤ちゃん専用のあそび場と授乳室、読書スペース、誰もが集える休憩室など、それぞれの施設に必要なあそびの機能をご提案します。

3 ニーズの変化に沿って、 進化する環境づくり

時代とともにあそび場のニーズも変わります。その際、ご要望に合わせて遊具の入れ替えや空間デザインの見直しを提案します。また、安全性を確保するために定期的な点検・保守・修繕などのアフターケアを行い、常に快適な環境を提供します。

4 0才から100才まで、 親子、家族、友だちと みんなで遊べる

あそびは子どもだけのものではありません。楽しいあそびは、子どもだけでなくさまざまな年代、立場の人たちにも大きな喜びと満足感を与えてくれます。子どもから大人まで、利用する対象年齢やシーンに合わせたあそびを提案します。



5 世界中から厳選した 優れたデザインと高品質な製品

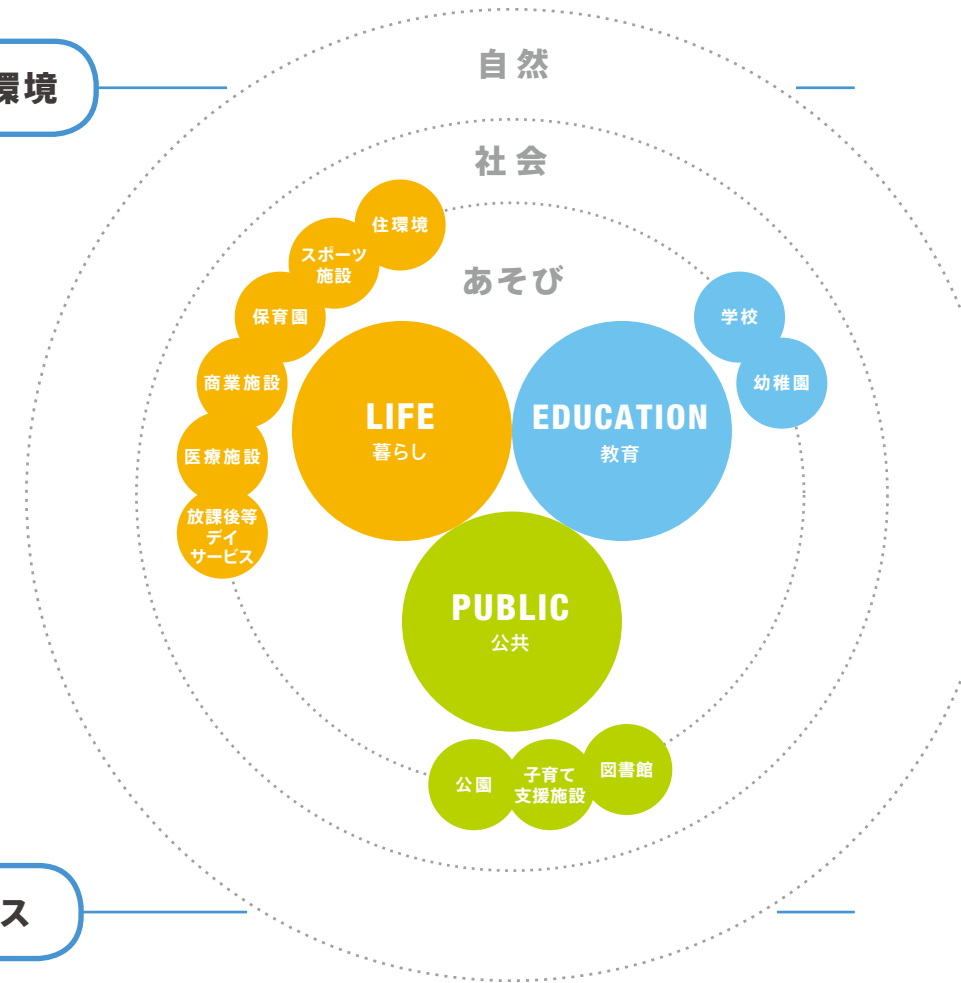
ボーネルンドのあそび環境は、世界20カ国、約100社のパートナー企業の3,500点におよぶ遊具や教材、家具を自由に組み合わせてデザインされます。パートナー企業へ実際に訪問し、思想や品質を確認し、世界中の安全で高品質な製品を選びすぐっています。

ボーネルンドのスタッフは、国際的なトイショーや工場の視察も行っている。



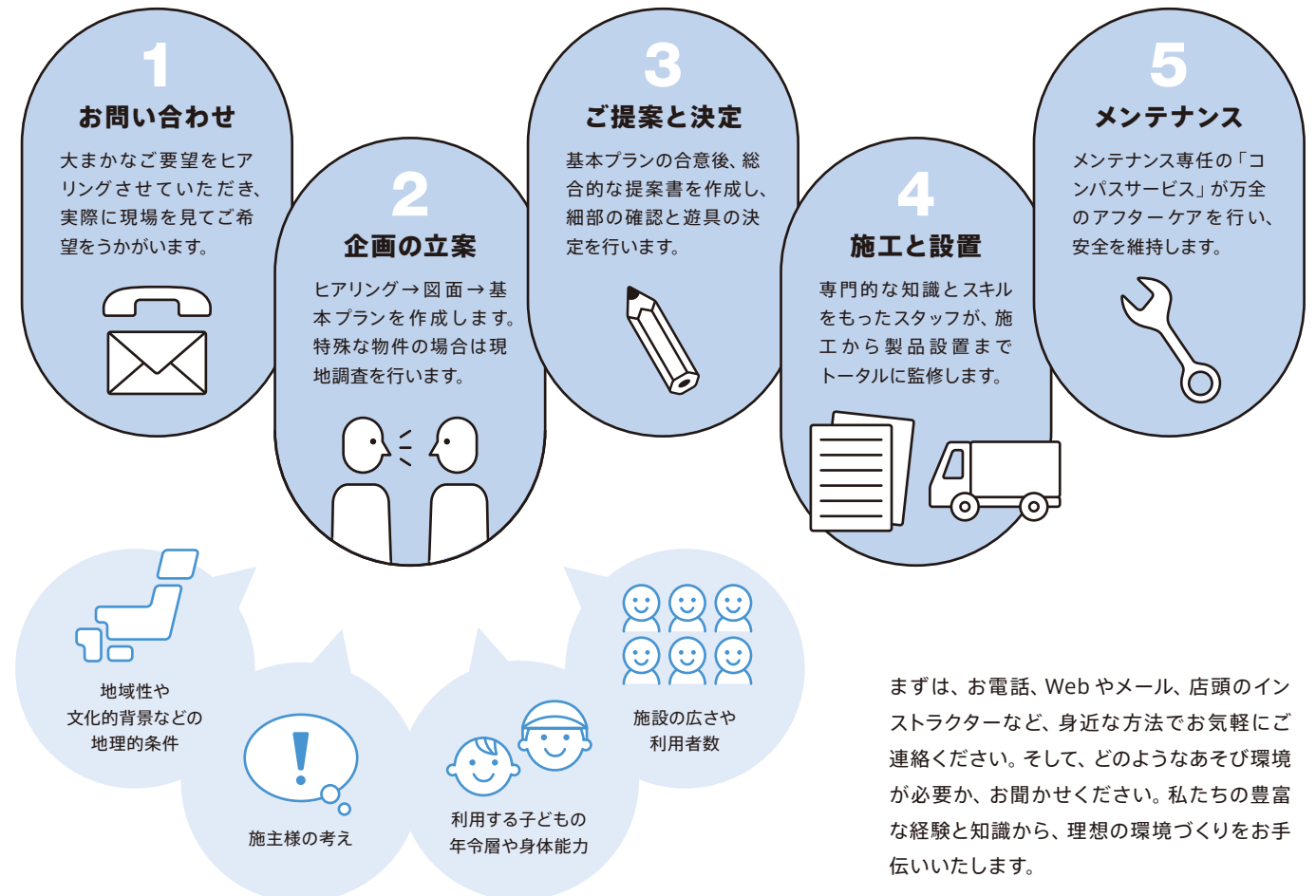
プレイスケープが存在する環境

子どもたちのためのあそび環境は、家庭や教育施設、公共空間といった社会環境のなかにさまざまなかたちで存在します。子どもたちが毎日過ごす保育・教育施設と、不特定多数の人々が訪れる商業施設とでは、それぞれの施設の役割や目的が異なります。多様な選択肢のなかから、そこに必要とされるあそびの道具と場所をご提案します。



あそび環境をつくるプロセス

ご提案の流れ



まずは、お電話、Webやメール、店頭のインストラクターなど、身近な方法でお気軽にご連絡ください。そして、どのようなあそび環境が必要か、お聞かせください。私たちの豊富な経験と知識から、理想の環境づくりをお手伝いいたします。

ボーンホルンドの あそび道具

私たちが提案するのは、子どもの成長に欠かすことのできない生活のための道具。その意味をこめて、おもちゃではなく「あそび道具」と呼んでいます。

ボーンホルンドならではの基準によって厳選されたあそび道具が、子どものバランスのよい健やかな成長を応援します。

ボーンホルンドの あそび道具選びの基準

「あそび」とは、自分でやってみたくて自発的におこす行動。そして、自分自身の成長を促すもの。この「あそび」が持つ価値をそなえているものを厳選しています。

ヨーロッパの安全性に関する公的基準CEマークの取得を最低限の基準としています。一方、あそび体験を通して子どもが自分で危険を回避する術の獲得を促すことも忘れません。

あそびの価値

安全性

デザイン

オリジナル

音なら正しくやさしいものを、色なら心に届くものを。感性を育む成長段階の子どもにこそ触れてもらいたい、デザイン性の優れたものを選んでいきます。

子どもが発達する過程に必要な機能を持つ道具を選んでいます。それらは模倣ではなく、常に子どもと道具との関係性を考慮してつくられた「オリジナル」です。

子どもの成長・発達と あそび



あそび場や保育環境には、子どもたちの年齢、成長、発達や興味に合わせて、多種多様な優れた遊びやすい道具を用意してあげることが大切です。ここでは、子どもの月齢とその時期におすすめのあそびの種類をご紹介します。

- あそび場では年齢やあそびの種類ごとにゾーンを分けることで、子どもたちがお互いにあそびをスムーズに進行でき、安心感を生み出す環境づくりをしましょう。
- 子どもは発達段階によって、親のもとで1人で遊ぶ、他の子どもと並行して遊ぶ、他の子どもと協力しあって遊ぶ、といったように、あそびの形態が変化します。また、自分で選べる多様性、あそびにのめり込める機能性や品質も重要です。道具選びにおいても、使う子どもの年齢層に配慮しましょう。
- それぞれのあそび道具には、適切な対象年齢が設定されています。発達段階にあった道具選びをしないと、あそびに集中して継続しないだけでなく、破損や事故の原因にもなります。

はじめて出会うあそび

見る・聞く・触るなどの基本的な五感を、出会うものすべてから育む赤ちゃんには、シンプルで見やすくつかみやすい、手触りのよいものがおすすです。



0ヶ月ごろ

- 1日のほとんどを寝て過ごす
- 近くのをじっと見つめ、音や声に対して反応する

3ヶ月ごろ

- 首がすわり、寝返りをうつ
- 欲しいものに手を伸ばし、握れるようになる

6ヶ月ごろ

- お座りができ、両手がつかえる
- 積み・くずす・転がすあそびができるようになる

1歳ごろ

- ひとり歩きが安定してくる
- 指先が器用になり、面白かったことをくり返す

2歳ごろ

- 周り自分と分けて考えられるようになる
- 他の子どもや大人の行動に興味を示す

3歳ごろ

- 上手に言葉で伝えられるようになる
- 「なぜ？」と興味を持つことが増える

4歳ごろ

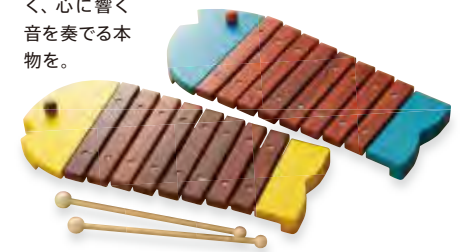
- さまざまな色やかたちを使って表現ができるようになる
- 友だちと集団遊びができるようになる

5歳ごろ

- ルールを理解して遊ぶことができる
- 体を使ったダイナミックな動きができるようになる

音を楽しむあそび

音に触れることはこころを豊かにするあそびのひとつ。感性を育てる時期だからこそ、できるだけ美しく、心に響く音を奏でる本物を。



指先遊び

はじめは口に入らないものからつまむ練習。つまんで動かす、触感を楽しむあそびを通して目と手の協応動作を促します。



考えるあそび

かたち・色・かず・言葉などは、子どもにとって抽象的な概念。世界の教育現場で選ばれている道具が、体験からの着実な理解を手助けします。



つくり出す遊び

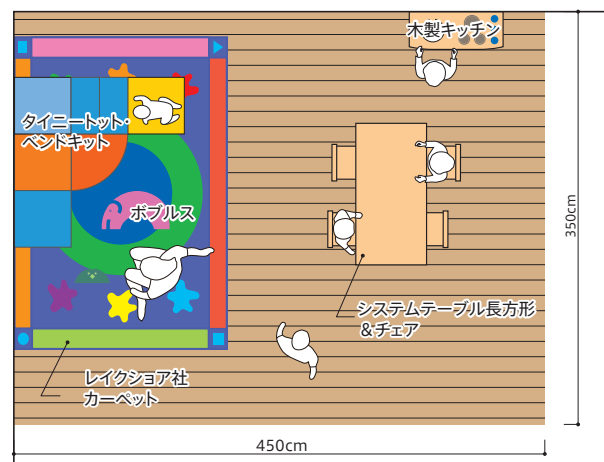
好きな色や素材を使い、湧きあがるインスピレーションをもとに自由にかたちにし、感性を磨き、自信を育みます。



いつでも必要な時に、自由に展開できるあそび場

「あそび場を設置したいけれど、常設はできなさそう…」

そんな時は、フレキシブルに展開できるあそび環境はいかがですか？可動式の玩具を選びながら、年齢の異なる赤ちゃんや幼児がそれぞれのゾーンで、思い思いに遊べる空間を実現しましょう。



あそび場のポイント

- 部屋の中央や壁のない場所でも展開できるよう、取り付け設置が必要ない玩具を選定
- 時間帯や日によって別の用途にもスペースを使用できるように、簡単に動かして収納できる玩具を選ぶ

こんな空間におすすめ

- 小規模保育園内プレイルーム
- 日にちや時間限定で展開するキッズコーナー



ご予算 50万円～（設置・搬入費込）

1. タイニートット・バンドキット
2. ボブルス ソウ
3. ボブルス チキン
4. レイクショア社製カーペット
5. スクイッシュ
6. オリジナル積み木 カラー
7. ミニレインボーメーカー
8. 木製キッチン・ユニットシンク
9. ままごと玩具各種
10. チェア「トビー」（白木）
11. システムテーブル 長方形（白木）
12. マグ・フォーマー各種



12 マグ・フォーマー各種
P150-151
幅広い年齢で遊べて、お片づけも簡単な磁石でつながる数学ブロック



11 システムテーブル
長方形（白木）P38
テーブルと椅子は組み立て遊びやごっこ遊び、お絵かきなどのイベントスペースにも使えます



10 チェア「トビー」（白木）
P39
子ども専用につくられた座りやすいイスが、ゆったり過ごす時間を演出します



9 ままごと玩具各種
P130
食器や食材を用意し、友だちや親子と一緒に楽しめます



8 木製キッチン・ユニットシンク
P127
引き出し部分が充実しているキッチンは、遊ばない時は玩具の収納場所としても使えます

コンテンツ



1 タイニートット・バンドキット P80
限られたスペース内で、赤ちゃんの頃からの体遊びを促します



2 3 ボブルス ソウ・チキン P79
ツールとしても使え、幼児まで体遊びを楽しめます



4 レイクショア社製カーペット P44-45
赤ちゃん親子でゆったり過ごすゾーンの目印になります



5 スクイッシュ P67
拭いてお手入れできる木製玩具。握る・振る・つまむあそびで赤ちゃんの手遊びを応援します

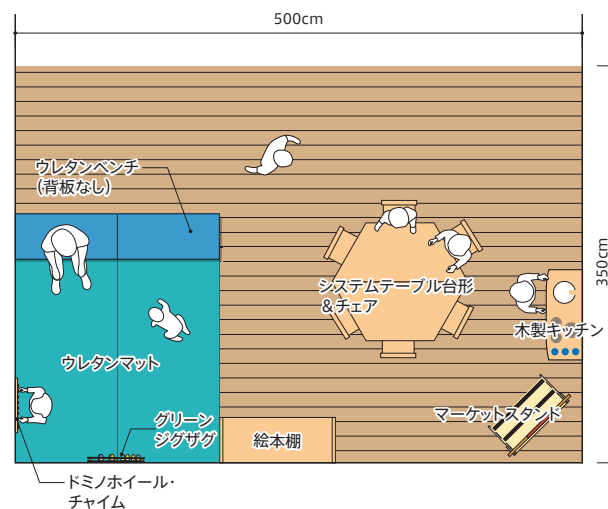


6 オリジナル積み木 カラー
P135
赤ちゃんから遊べ、幼児の組み立て遊びにも欠かせない基本のあそび道具



7 ミニレインボーメーカー
P137
転がす、振る、楽器として使うなど、機能が豊富な玩具であそびが広がります

来るたびに 新しいあそびに出合える、 親子のあそび場



あそび場のポイント

- やわらかいマットを床に敷くことで、お手入れしやすく赤ちゃんにも安心
- 壁面遊具を使用し、省スペースでもあそびの機能を追加
- 細かな遊具や絵本を買い替えていくことで、各ゾーンのあそびに新鮮さを出せる仕組み

こんな空間におすすめ

- カーディーラーのキッズスペース
- 病院の待合室
- 保育教育施設内プレイルーム

「充実したあそびを用意して、 じっくり飽きずに遊んでもらえたら…」

ライブラリーを含む4つのあそびの機能で構成したあそび場。テーブルや本棚、木製キッチンなどあそびの舞台となる環境づくりを行い、細かな遊具や絵本を定期的買い足し、交換していくことで来るたびに新しいあそびに出合える空間をつくることができます。



コンテンツ



- ① ままごと玩具各種 P130
想像の世界を広げ、生活の追体験を十分にできます



- ② 木製キッチン・ユニットシンク P127
耐久性に優れた木製キッチンでままごと遊びを楽しめます



- ③ チェア「トビー」(白木) P39
座りやすいイスを使い、集中して遊べる空間をつくれます



- ④ システムテーブル台形(白木) P38
テーブルと椅子は組み立て遊びやごっこ遊び、お絵かきなどのイベントスペースに使えます



- ⑤ マーケットスタンド P128
本物そっくりのお店屋さんごっこが体験できます



- ⑥ マグ・フォーマー各種 P150-151
テーブルでじっくり取り組む、組み立て遊具



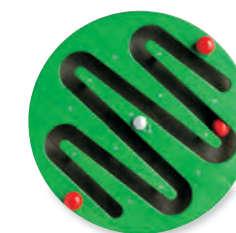
- ⑦ 本棚 スライド P36
選びやすく片づけやすい絵本棚が、親子の読み聞かせの時間を広げます



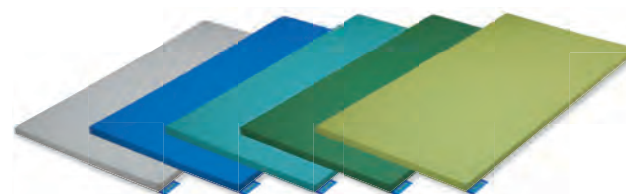
- ⑩ アンビ・トイ社の遊具 P68-69
お手入れしやすく買い足しやすいプラスチック遊具は、定期的に遊具を入れ替えたあそび場におすすめ



- ⑨ ウォールゲーム ドミノホイール・ドミノチャイム P47
仕掛けがあるプレイウォールは、壁に動きと音の変化を与えます



- ⑧ ウォールプレイ グリーングザグ P47
繰り返し遊びたくなるウォールトイは、つかまり立ちの赤ちゃんを夢中にさせます



- ⑪ ウレタンマット P108
すぐ拭けるお手入れしやすいマットは、衛生的に保て、赤ちゃんにも安心

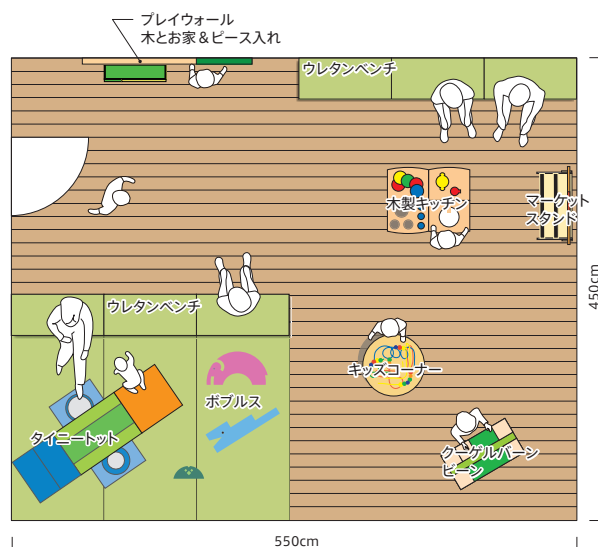


- ⑫ ウレタンベンチ ウェーブ P58
パーテーション兼大人がゆったりすごせるベンチ

ご予算 100万円～(設置・搬入費込)

1. ままごと玩具各種
2. 木製キッチン・ユニットシンク
3. チェア「トビー」(白木)
4. システムテーブル台形(白木)
5. マーケットスタンド
6. マグ・フォーマー各種
7. 本棚 スライド
8. ウォールプレイ グリーングザグ
9. ウォールゲーム ドミノホイール・ドミノチャイム
10. アンビ・トイ社の遊具
11. ウレタンマット
12. ウレタンベンチ ウェーブ

交流が広がる、 シンボル遊具がある あそび場



あそび場のポイント

- あそびの種類が豊富で、長時間の利用や毎日の利用でも満足できる
- お家では体験できないような大型遊具をそろえ、あそび場ならではの空間を演出
- 大人が座れるベンチを用意し、大人同士もゆったり交流できる環境に

こんな空間におすすめ

- マンションのキッズスペース
- 子育て支援施設
- 商業施設内あそび環境

「毎日使うあそび場を、 大人も交流できる場所にできれば…」

複数の子どもたちと一緒に遊べる大型の遊具がある近所のあそび場は、親子にとって「場慣れ、人慣れ」の場となり、子育ての情報交換の場にもなります。親子でゆっくりと滞在できる場が生まれ、地域の子育てと家族の大切なコミュニケーションの場をつくれます。



コンテンツ

① ウレタンベンチ ウェーブ P58

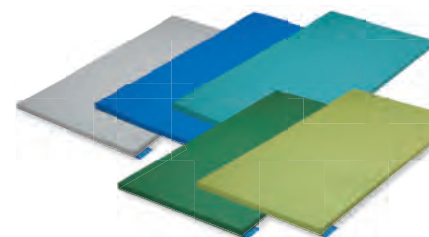
大人同士の交流も促す、ゆったり座れるベンチ



②

ウレタンマット P108

安心して体遊びができる、やわらかいマット



③ タイニートット・ バンドキット P80

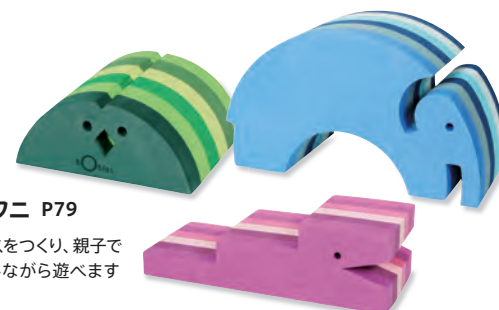
赤ちゃんの体遊びの道具。全身を刺激します



④ ⑤ ⑥

ポプルス ゾウ・チキン・ワニ P79

複数個つなげてコースをつくり、親子でコミュニケーションしながら遊べます



⑦ プレイウォール 木とお家 P49

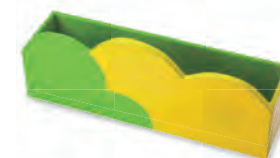
自由に作品づくりが楽しめる大きなプレイウォール。ギアや磁石が貼れる木の部分では毎回来るたびに新しい作品に挑戦できます



⑧

ビース入れ ブッシュ P48

細かなビースをしまうケースがあれば、お片づけも安心です



⑨

マグ・フォーマー各種 P150-151

まるで絵かきをするように、マグネットウォールにピースを並べて自由に表現遊び



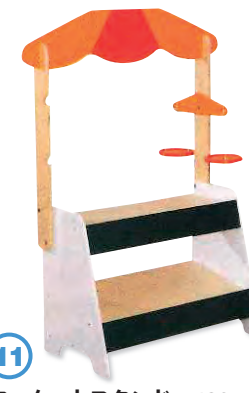
⑫ 朝食・昼食・夕食セット P129

ままごと遊びにお店屋さんごっこ舞台もプラスすることで、想像遊びに幅が広がります



⑪

マーケットスタンド P128



⑩ 木製キッチン(食器洗い機・コンロ・シンク・冷蔵庫) P127

壁際に並べる、集合させるなど自在にままごとコーナーをつくることのできる木製キッチンシリーズ



ご予算 150万円～(設置・搬入費込)

1. ウレタンベンチ ウェーブ
2. ウレタンマット
3. タイニートット・バンドキット
4. 5. 6. ポプルス ゾウ・チキン・ワニ
7. プレイウォール 木とお家
8. ビース入れ ブッシュ
9. マグ・フォーマー各種
10. 木製キッチン(食器洗い機・コンロ・シンク・冷蔵庫)
11. マーケットスタンド
12. 朝食・昼食・夕食セット
13. クーゲルバーン ビーン
14. キッズコーナー



⑭ キッズコーナー P40

複数人数で一度に遊べる、指先遊びが楽しめるテーブル



⑬ クーゲルバーン ビーン P43

ダイナミックなボールの動きが楽しく、何度もくり返して遊べます